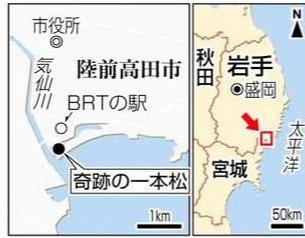


対象	小学校高学年以上
教科	特別活動・総合学習
該当 単元	小学5年～ 「防災教育」 「被災地の将来を 考える」 等
教科書	
掲載日	2017. 1. 5. 朝刊 12版 4面



岩手県陸前高田市で一番の観光名所となった「奇跡の一本松」



一本松は、海沿いに約七万本の松が並んでいた景勝地「高田松原」の中で唯一、津波後も残った。地震による地盤沈下の影響で、海水に浸り根腐れして枯れたものの、市は被災者の希望になるとして受け継ぐことを決断。世界中から寄付を募った。幹の中心をくりぬいてカーボン製の棒を通し、防腐加工を施した。葉や枝は樹脂製のレプリカで再現。約一億五千万円かけ二〇一三年六月に元の姿が現れた。

東日本大震災の津波に耐えた岩手県陸前高田市の「奇跡の一本松」が、多くの来訪者を呼び寄せている。「他のことにお金を使った方がよい」との反対意見も目立った復元工事から三年半。バス高速輸送システム（BRT）の駅や土産物屋も周囲に完成し、陸前高田一の観光名所となった。

復元から3年半 住民「残して良かった」

復元後、同市は夜間にライトアップするなどして積極的に活用。同七月、BRTに「奇跡の一本松」駅が設置された。当初は期間限定の予定だったが利用者が多く、常設の駅になった。一四年八月には土産物屋もオープン、松が描かれた菓子やタオルといった約五十種類のグッズを販売する。「大金をかけて復元する話を聞いた時は、まだ生活が苦しくて反対だった」と話す佐藤ミエ子さん（七七）は、津波によって自宅が全壊し約五年間仮設住宅で過ごした。「人を呼び込めるし、津波の恐ろしさも伝えられる。今は残して良かったと思う」。松の近くに設置されているノートには「近くに住んでいたのにそばまで来たことはありませんでした。明日から頑張ろうって思えました」との感想が書き込まれていた。市の担当者も「町のシンボリックな存在で、観光の中心となっている。市外の人からの『見に行きたい』という声は多い」と強調する。周辺は今後、旧道の駅といった震災遺構と併せて整備が進められ、二〇年度をめどに国営の追悼・祈念施設が完成する予定。

問1：この一本松は、もともと何という場所に何本くらいあった中の1本なのでしよう。

()に、約()本あった中の1本

問2：リード文には復元に反対意見も目立ったとありますが、記事に登場する佐藤さんの話から、反対の理由をまとめてみましょう。

まだ()のに、復元に()から

問3：サブ見出しに『住民「残して良かった」』とあります。そう思う理由を三つ探しましょう。 ①()を呼べる ②()が伝えられる

③明日から()と思える

発展：観光名所にするための周辺状況について、現在の状況と今後の計画をまとめましょう。

現在
今後

【活用にあたって】

2016年は熊本を襲った大地震をはじめ、各地で大きな揺れを観測し、阪神淡路大震災や東日本大震災の恐怖を思い出すことも多くありました。また震災によって引っ越しを余儀なくされたご家庭の子どもが、いじめに遭うというニュースも何度か目にし、耳にしました。

そう考えると防災教育の重要性を感じないではられません。その時に自分の身を守るだけでなく、過去の例から様々な場面での生き方を考えることまで想定することが必要だと思います。こうした記事を活用して折に触れて考えていきたいものです。

解答例

問1 : 高田松原 ・ 7万

問2 : 生活が苦しい ・ 大金がかかる

問3 : ① 人 ② 津波の恐ろしさ

③ 明日から頑張ろう

発展 :

現在 : 夜間のライトアップ ・ BRTの設置

土産物屋 ・ グッズ販売

今後 : 震災遺構と併せた整備

国営の追悼・祈念施設の建設